春夏 秋 冬

橦木館日和

しゅもくかんびより◆第三十号

文化のみち橦木館
Cultural Path Shumoku Museum
旧井元為三郎邸

発行日：2024年9月25日
発行：文化のみち橦木館
指定管理者：株式会社COSMO CONSULTANT

西蔵（左）と東蔵（右）

蔵のヒミツ

二棟の蔵は、そのあいだとなる空間部分を含め、
黒漆喰（くろしっくい）の塗壁ですっぽりと覆われ、
一見ひとつの大きな建物のように見えますが、
建設時期にかなりの年数の違いがあり、
東蔵（非公開）が、和館や洋館が建てられる以前から、
敷地内に存在していたことは、あまり知られていません。
（2面 蔵のヒミツより）

西蔵の地下室への階段

蔵のヒミツ

文化のみち橦木館は、１９２６年、大正末期から昭和初期にかけて、輸出陶磁器商の井元為三郎の邸宅として建てられました。江戸時代、名古屋城の東側に位置するこのエリアには、６００坪に区画割りされた土地に、中級武士のためのお屋敷が建ち並んでいました。橦木館も同様の敷地に、和館、洋館、茶室、そして東西二棟の蔵があります。敷地の北側に位置するこの二棟の蔵は、そのあいだとなる空間部分を含め、黒漆喰（くろしっくい）の塗壁ですっぽりと覆われ、一見ひとつの大きな建物のように見えますが、建設時期にかなりの年数の違いがあり、東蔵（非公開）が、和館や洋館が建てられる以前から、敷地内に存在していたことは、あまり知られていません。

写真①：蔵の修理工事（2008年裏庭から撮影）東蔵（左）は煉瓦、西蔵（右）は瓦。

橦木館（旧井元為三郎邸）の和館や洋館建築当時の見積書や配置求積図などの資料によると、この東蔵は「既設」としるされており、さらに西蔵は、和館と洋館竣工後、７年の時を経て１９３３年に完成していることからも、建築時期の違いがはっきりとわかります。京都より移築されたと言われている庭園の茶室を除けば、この東蔵は、敷地内最古の「橦木館の建築物」であると言えるでしょう。また２００８年、名古屋市が橦木館を取得後におこなった修理工事の当時の写真から、黒漆喰の塗壁の下地が、東蔵は煉瓦、西蔵は瓦（写真①）で造られおり、壁の材料の違いについても知ることができます。

現在（2024年）の様子。

右：煉瓦造・黒漆喰仕上げ（東蔵）
左：木造・黒漆喰仕上げ/（西蔵）地下室のみRC造

東蔵の観音開きの扉は、土壁に黒漆喰仕上げで開口部と扉に掛子（かけご）と呼ばれるいくつかの段（写真②）がつけられ、扉を閉めたときに内外が隙間なくしっかりと組み合うようにするため、漆喰の仕上げの精度には、左官職人の優れた技術が求められました。これは、火災時にひとつの火の粉も内部に入らないような構造にするためで、しっかりと閉まった、重厚感あふれる扉のたたずまいは「蔵の美」の象徴でもあり、日本の建築技術が成しえる機能性と美しさを見事に両立させていると言えるのです。

西蔵の二階（非公開）の様子。長持ちや衣桁、食器類など多用途の収納保管に使われた。

写真②西蔵の観音扉

西蔵の扉は、鉄でできています。東蔵と同様に黒色の塗装喰で仕上げられているので、一見すると鉄製であることはお気づきにならないかも知れません。両扉には開閉するための頑丈な取っ手がついています。蔵の中には大きな金庫（写真③）が漆喰の壁で塗り固められ固定されており、万が一のための耐火の工夫と考えられています。

堅牢（けんろう）な蔵の建築へのこだわりの理由として、西蔵が竣工する10年前の１９２３年、関東大震災による大火災で、広域に渡り壊滅的な被害が出た中、いくつもの蔵が焼け残り、大切な家財を守ったという事実が、その背景のひとつとも考えられます。

　実はこの西蔵には、鉄筋コンクリート造（ＲＣ造）の地下室（非公開）があります。東西二棟の蔵はどちらも一見、二階建てに見えますが、西蔵のみ地下一階、地上二階、二階の三つのフロアで構成され、地上部は木造の土蔵、ＲＣ造の地下室が基礎を兼ねています。二棟のあいだの屋根付きの空間部分（非公開）に、地下室へと続く階段（表紙写真）が設けられ、うす暗い階段を降り重い鉄の扉を開けると、ひんやりとしたコンクリートで塗り固められた空間が広がっています。室内は、小さな網入ガラスの押開窓（写真④）が三ケ所のみ配置され、唯一の採光部となっています。地上へ上がると、防犯や防水のためなのか、その採光部の空間は、当時の建材としてはとても貴重であったガラスブロックが埋め込まれた石材（写真⑤非公開）でふさがれているので、この下に地下室の存在を想像することは、容易ではありません。

建主であった井元為三郎の細部にわたる建築へのこだわりと美意識、ほんの少しの遊び心が感じられる蔵の片隅のガラスブロックは、このさきも、時を忘れて、地上からの柔らかい光を地下室へと届け続けてゆくことでしょう。

写真③西蔵の金庫

写真④地下室の押し開窓

写真⑤ガラスブロックが埋め込まれた石材/非公開

令和６年度 催し暦（４月～７月）

毎月第２日曜日
「橦木館絵本読み聞かせ」

４／20～５／６
「現代縄文美術館」

６／７～６／21
「木工からつくる展『机と椅子と』」

６／29～７／28
「WAZAART FES in 名古屋２０２４」

火曜日・日曜日（不定期開催）
「月夜（つきよ）が」

７／17～７／21
「大!?井元為三郎展」

文化のみち橦木館では、館主催イベントをはじめ、貸室利用によるイベントを年間通しておこなっています。当館では和室・洋室・茶室・蔵・庭園をお貸しします。詳しくは下記の電話番号へお問い合わせいただくかホームページをご覧ください。

TEL:052-939-2850　https://www.shumokukan.jp